

学校だより 第6号

令和7年8月26日発行
京都府立向日が丘支援学校
京都府長岡京市今里南平尾8-1
Tel 075-951-8361
Fax 075-951-8362
<https://www.kyoto-be.ne.jp/mukougaoka-s/cms/>



いつも本校の教育に温かい御声援をいただき、誠にありがとうございます。

今年の夏休みも、例年以上に厳しい暑さが続きましたが、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。夏休み中の学校では、高等部の生徒が夏季特別講習に登校したり、教職員が校内外の研修会に参加したりと、にぎやかな日々が続いていました。

進路指導部主催の「コミュニケーション支援と権利擁護」に関する研修会では、私自身が教員として採用された頃のことを思い出しました。初めて担任をした際、子ども達とのコミュニケーションがうまく取れず悩んでいた私に、先輩の先生が「センスがないからだ」とおっしゃり、さらに落ち込んだことが今も記憶に残っています。

ちょうどその頃、「教師のセンス」について書かれた記事を読みました。そこには、センスとは非常に曖昧な概念であり、定量的に測る物差しもなく、スキルのように習得できるものとは異なると記されていました。しかし、実体がないわけではなく、その人に内在化されていて、瞬間瞬間の指導の方向性を左右するほど、教育において大きな影響力を持つとも述べられていました。私はその記事を読みながら、「センスがない」と言われた当時の自分には、そもそもスキル自体が不足していたのだと気づかされました。つまり、センスとは経験や学びの積み重ねの中で育まれていくものなのだと、今では感じています。

今回の研修では、以下のような押さえなおしがありました。

- ・「理解」の支援には、具体的で肯定的な伝え方と、特性に応じた手段の工夫が必要であること
- ・「表出」の支援には、子ども達の強みを生かした表現手段の準備が重要であること

「言われていることがわからない」「言いたいことが伝えられない」—これほど苦しいことはありません。校内にも、そして巡回相談で訪れる地域の特別支援学級にも、同じように困っている子ども達と先生方がいます。

この夏の研修を通して、改めて「伝えること」「伝わること」の大切さを実感しました。子ども達の声にならない思いを想像しながら、指導や支援の質を高めていくことは、私たちの大切な役割です。そしてそのためには、学び続けることが欠かせません。教職員が安心して学び合える場をこれからもつくっていきたいと考えています。

2学期も、子ども達の笑顔と成長の様子を、学校だよりを通してお伝えしてまいります。引き続き、温かい御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

校長 飯田 英美子

スポーツ大会

第45回全京都障害者総合スポーツ大会のボッチャ大会の部が6月29日(日)、卓球大会の部が7月20日(日)、水泳大会の部が8月17日(日)に開催されました。猛暑の中でしたが、互いに励ましあい、最後まで諦めず、自分のベストを出せるように取り組むことができました。



ふれあい・心のステーション

今年度も大丸京都店 6階イベントホールにて9月10日(水)、11日(木)に、製品販売「ふれあい・心のステーション」が開催されます。

本校では高等部職業キャリアコース2、3年生が作業学習で製作した製品を販売します。

6月に実施された大丸京都店様による接遇研修で学んだことを販売に参加する皆で確認し、おもてなしの心、そして笑顔での接客を目指して日々練習に励んできました。

今年度は製品のPRコーナーもあり、各校の生徒が製品を紹介します。

本校は9月10日(水)11:00~15:30に販売します。是非、お立ちください。笑顔でお待ちしております。

